

長岡市・栃尾市合併協議会
長岡市・与板町合併協議会
第1回新市建設計画策定小委員会

議 事 録

第1回新市建設計画策定小委員会会議録

1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成17年1月28日(金) 午後5時30分
- ・場 所 長岡市役所第3委員会室

2 会議出席委員の氏名

豊口 協 鯉江 康正 二澤 和夫 大地 正幸
外山 康男 平林 豊作 石丸 誠亮 阿部 誠一

以上 8名

(欠席委員の氏名)

佐々木一昭

以上 1名

3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡市・栃尾市合併協議会、長岡市・与板町合併協議会合同新市建設計画策定小委員会

事務局（北谷）

それでは、ただいまより長岡市・栃尾市合併協議会、長岡市・与板町合併協議会合同の第1回新市建設計画策定小委員会を開催させていただきます。

なお、本日の小委員会は佐々木与板町助役が欠席されておりますが、規程により会議が成立していることをご報告いたします。

また、ご発言の際にはお近くのマイクをお使いくださるようお願いいたします。

初めに、資料の確認をお願いいたします。資料は4種類、資料1、2、3、4でございます。

続きまして、僭越ではございますが、私から委員の皆様をご紹介させていただきますので、資料1をごらんください。恐れ入りますが、名前を読み上げられた方はその場にてご起立くださいますようお願いいたします。

まず、長岡市・栃尾市合併協議会新市建設計画策定小委員会の委員をご紹介いたします。

長岡市の委員から紹介いたします。二澤長岡市助役でございます。大地長岡市議会市町村合併調査研究委員会委員長でございます。

続いて、栃尾市の委員を紹介します。外山栃尾市助役でございます。平林栃尾市議会議長でございます。

続いて、学識経験者の委員をご紹介します。豊口長岡造形大学理事長様でございます。鯉江長岡大学助教授様でございます。阿部新潟県長岡地域振興局長様でございます。

続きまして、長岡市・与板町の小委員会の委員をご紹介いたします。長岡市の委員の方は今ほどご紹介しましたので、省略させていただきます。石丸与板町議会市町村合併問題特別委員会委員長様でございます。

ありがとうございました。以上で委員紹介を終了させていただきます。

続きまして、次第の3番目でございますが、委員長、副委員長選出に移らせていただきます。

両協議会とも小委員会の規程がございまして、その第4条に基づきまして、正副委員長については委員の互選により1名ずつ選出することになっております。

長岡市・栃尾市の小委員会、長岡市・与板町の小委員会、それぞれの委員長の選任をお願いしたいと思いますが、どなたかご意見ございませんでしょうか。

二澤委員。

委員（二澤和夫）

大変僭越でございますけれども、与板町との委員会、それから栃尾市との委員会とも、両方ともぜひひとつ豊口先生からお願いしたいというふうに思いますが、ご賛同のほどお願いいたします。

「異議なし」という声あり

事務局（北谷）

ありがとうございました。

皆様のご賛同をいただきましたので、委員長には豊口委員さんからお願いしたいと思います。

続きまして、副委員長についてご意見ございませんでしょうか。

大地委員。

委員（大地正幸）

栃尾市、与板町ともに鯉江委員を副委員長に推薦いたします。

事務局（北谷）

ただいま鯉江委員に副委員長を推薦というご意見ございましたが、よろしゅうございますか。

「異議なし」という声あり

事務局（北谷）

ありがとうございます。

それでは、副委員長には鯉江委員さんをお願いしたいと思います。

正副委員長に決まりましたお二人には、お手数ですが、席を移動して正面におかけいただけますでしょうか。

正副委員長席に着く

事務局（北谷）

それでは、正副委員長よりそれぞれ一言ずつごあいさつをいただきたいと思います。

委員長、よろしく申し上げます。

委員長（豊口 協）

また大任を仰せつかりまして、将来に大きな夢と希望を持ちながら進めていく小委員会でございます。ひとつすばらしい新市をつくるために皆さん方の絶大なるご支援、ご協力をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局（北谷）

副委員長、お願いします。

副委員長（鯉江康正）

鯉江でございます。微力ながら、いいまちづくりのために少しでも努力していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局（北谷）

ありがとうございました。

それでは、今後の進行については豊口委員長をお願いいたします。

委員長（豊口 協）

それでは、早速でございますけども、第1回の新市建設計画策定小委員会を進めさせていただきたい

と思います。

早速でございますけども、次第の4番目に書いてございます内容につきましてこれから審議をしていただきますが、最初に1番の新市建設計画策定小委員会の役割について、これ事務局の方から説明お願いしたいと思います。

事務局（高橋）

それでは、資料2と右肩に振ってあるものをお出してください。栃尾の委員さんにつきましては、栃尾と振ってあるものでございます。与板の委員さんにつきましては、与板と振ってあるものでございます。それ以外の方は、両方同時に見比べながら説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。よろしいでしょうか。

最初に、1番、小委員会、本委員会の位置づけでございます。基本的な考え方としましては、1回目の協議会におきまして小委員会の役割、それから建設計画につきまして小委員会を設置するという、これらをご承認をされております。その内容が次のページの小委員会規程、それからさらにその次にあります小委員会の設置要綱でございます。これにつきましては、協議会で説明が終わっておりますので、本日は説明をいたしません。

また最初の方にお戻りください。小委員会の位置づけでございますが、小委員会は新市全体のまちづくりの視点から建設計画にかかわる検討、審議を行い、計画案を策定する機関として位置づけております。計画の案を策定し、協議会の本体の方に報告した上でお諮りをする、これが小委員会の位置づけでございます。

2番、小委員会の内容でございます。基本的には各市、それから各町の分科会等で検討をまずいたします。その検討を経て、事務局から小委員会の方に建設計画についての資料等お出しいたします。それらをもとにご審議をいただき、計画案としてまとめていただくということでございます。なお、その際には私ども事務局から提案するものだけではなくて、施策について、事業について、さまざまなアイデアなど創造的な意見も含めてお出しいただき、ご議論をいただく、こういう考え方でございます。

その討議、審議の検討のポイントが3番としてまとめてございます。事業を検討する段階と、それから施策の中身まで及ぶ段階とあるわけでございますが、まず事業の検討の段階におきましては資料内容の単純な質疑にとどまらない新市合併後の10年間の新市の建設についてのご意見、それから施策についてのアイデアなど創造的なご意見を出していただきたいという考え方でございます。それから、施策の部分に及ぶ議論でございますが、当然全体的な内容審議を主に中心としながら議論を進めていただきたいと考えております。それらを計画の案として協議会に提案をしていくということでございます。さらに、議論のポイントということで下の方にまとめてございます。繰り返しになりますが、新市将来構想、これが既にできておきまして、この実現に向けた施策の方向性をご検討いただくということです。それから、長岡市と栃尾市、長岡市と与板町という形の建設計画書になりますが、新長岡市全体の視点を踏まえながら事業、施策のご議論をしていただきたいというのがこのポイントでございますので、よろし

くお願いいたします。

一番最後の4番でございます。ここでは、主にスケジュールをどういった回でどういった内容をするかということスケジュールとしてまとめたものでございます。第1回目でございますが、本日でございます。小委員会の役割について今ほど説明している内容でございます。それから、建設計画策定の考え方と、その手法についてご確認をいただくこととなります。さらに、ここには表記してございませんが、建設計画書の第1章、新市の概況から見た可能性、いわゆるデータとしてそれぞれの市、町の概況を整理したものでございますが、それらの部分につきましても本日ご審議をいただきたいというふうに考えております。それから、与板町さんにおきましては第2回目でございますが、いわゆる将来構想の部分を中心に第2回目にご議論いただく予定でございます。栃尾市さんと長岡の協議会の委員会につきましては、既に将来構想の部分が任意協議会において策定が終わっておりますので、建設計画本体の中身の部分についてのご議論をいただく予定でございます。したがって、与板町さんとの小委員会におきましては、第3回目の小委員会で建設計画の全体像の内容部分についてご議論をいただく予定でございます。そして、一番最後、栃尾市さんとの小委員会につきましては第3回目、与板町さんとの小委員会につきましては第4回目ということになりますが、これはもう県との事前協議の終了した形で最終的に建設計画書としてまとめていく最後の協議会に諮る直前の小委員会を第3回目としまして、今の予定としましては3月になるかと思っておりますが、3月に最後の小委員会を開催したいと考えるものでございます。

小委員会の役割については以上でございます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

今までのところで何かご質問はございませんか。よろしいでしょうか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、2番目の新市建設計画策定の考え方と手法について、事務局、お願いいたします。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明いたします。事務局の竹見と申します。それでは、資料3、新市建設計画策定方針をごらんください。こちらの策定方針につきましては、第1回の協議会で大まかな方針としてご承認をいただいております。本日は、少し詳しくご説明いたします。時間の関係で、ポイントだけご説明いたします。

2番目の計画策定の基本方針です。一つ目、新市建設計画策定に当たっては長岡地域新市将来構想及び長岡地域新市建設計画を基本とするということで、本日お持ちかと思っておりますけども、2冊、将来構想、それから建設計画、一体となって考えていくということです。

それでは、新市建設計画の5ページをごらんください。こちら建設計画策定に当たっての基本的な考え方をまとめてございます。一番上にございますように、建設計画とは新市の地域らしさ価値を高めていく計画です。そして、真ん中ほどに建設計画とはということで三つほど基本的なことを挙げております。構成市町村が新市において共存共栄を図って一体的な活動するという計画、それから新市将来構想を実現するための具体的な事業計画であること、そして三つ目が行政だけの目標や計画ではなく、住民と行政が協働で実施するまちづくりの活動計画であるということでございます。

少しページ飛びますけども、81ページをごらんください。81ページは長岡地域の将来構想と、それから建設計画とのつながりを示しております。赤くくった部分が新市将来構想、それから緑でくった部分が新市建設計画でございます。一貫して一番上にありますように市民の声、思い、それから地域の強み、これを原点としております。そして、四つの新市地域らしさ価値、こちらに書いてございます。これを高めるために地域別活動方針、それから重点実現項目というものを長岡地域では検討してまいりました。栃尾市さんでは、既に地域別整備活動方針ができています。与板町さんは、こちらの地域別整備活動方針をこれから確定していくということで、地域がどういう役割を担っていくか、そしてどういう地域になりたいかというものをまとめていきます。そして、地域らしさ価値を高めていくために、下にありますように新市による根幹事業、これをこれから検討していくということになります。根幹事業はハード、ソフト両方検討していきます。そして、新市建設の根幹となる新潟県事業、こちらも検討していくということです。それから、左にありますように一貫して市民はオーナーであると、そして行政の新たな仕組みづくり、そして市民と行政のパートナーシップを構築した中での事業構築をしていくものということでまとめています。

もう一度5ページにお戻りください。5ページ下の二つ囲ってございますけども、現市町の既存計画との関連でございます。既存計画は、いろいろお持ちかと思えますけれども、新市建設計画の素材として位置づけていくということです。それから、新市合併後の総合計画との関連ではございますけれども、新市建設計画は将来構想を実現するために、いわゆる根幹となる事業を明確にしていくものでございます。ですので、新市のいわゆる全分野に及ぶ細かい施策や事業を掲載するものではないということでございます。新市が目指すまちづくりの詳細な内容については総合計画で合併後に掲載するというところでございます。

続きまして、資料3の2番の(2)でございます。新市建設計画の策定は、長岡地域新市建設計画に長岡市と栃尾市もしくは与板町との合併に必要な内容を追記することにより行うこととし、長岡地域合併協議会で策定した内容は変更しないものとする。いわゆる長岡地域合併協議会で策定しました、こちらの建設計画、これを基本にいたします。それについて追記するということですが、本日資料4お手元でございますけれども、例えばこちらにそれぞれのまず1ページがアクセス時間ということで、それぞれ栃尾市さん、それから与板町さんを追記されております。こういった形で随時資料を必要に応じて追記していくということです。

それから、また建設計画の方にお戻りいただきまして建設計画書、こちらの45ページをごらんください。45ページ以降は、具体的に事業名が掲載されるということでございまして、6市町村で策定いたしました、こちらには戦略的事業が提示されています。こちらに例えば何か追記する内容がございましたら、欄を増やしたりして事業を追加していくということになります。以下、5章から7章まで同様の形で追記をしていくということになります。

それから、策定方針の4番です。長岡市と栃尾市もしくは与板町との合併において追加する主な内容ということですが、新市建設の基本方針でございます。こちらの本日お持ちの将来構想の51ページをごらんください。栃尾地域の夢は、もう既に策定されています。与板町さんの与板地域の夢につきましては、こちらの将来構想の第4部の中に追記されていくということになります。検討全体の流れにつきましては51ページにありますし、それから52ページにつきましては長岡地域で策定したときのワークショップの実施プログラムも掲載しております。栃尾市さんは既に載ってございまして、63ページから66ページ、長岡市を除きまして各市町村で4ページ構成になってございまして、与板町さんも最終的にはこういった形で整理されるということでございます。将来構想はこちらの4ページ構成、それから建設計画でございますけれども、建設計画の方は、あちこち資料飛んで申しわけありませんが、29ページからそれぞれの地域別の整備活動方針が載っています。ですので、こちらの方に追記されるということでございます。

続きまして、4の(2)、新市建設の施策でございます。長岡市と栃尾市もしくは与板町さんとの新市建設に係る新市による根幹事業と新潟県の根幹事業ということで、先ほどご説明いたしましたとおり建設計画書の第4章以降にそういった形で施策が追記されるということです。

続きまして、(3)、財政計画です。新市建設のための歳入歳出の計画ということで、建設計画書で申しますと、75ページでございます。75ページは財政計画の基本的考え方、それから前提条件を整理してあります。それで、76ページの3番の方に財政計画として、平成17年度から26年度まで10年間の合計というものをそれぞれ策定していくということになります。

続きまして、策定方針5番の策定手順でございます。策定手順につきましては、建設計画の37ページをごらんください。こちら6市町村で策定した建設計画策定のプロセスを掲載しております。基本的には各市町から事業案を作成していただきまして、分野別分科会から事業整理などをしていただいて、企画総計あるいは合併担当のワーキングをして、そしてこちらの建設計画策定小委員会にお諮りするということになります。そして、合併協議会の方で建設計画の方をもう一回ご審議していただいて、新潟県との協議を重ねながら最終的にまとめ上げていくということでございます。先ほど申しましたように栃尾市さんは、もう既に地域別活動方針ができています。与板町さんにつきましては、これから長岡地域新市将来構想に基づいて与板地域の整備活動方針を策定していきます。以上、5番の策定手順につきましては今ご説明したとおりでございます。

それから、6番の構成につきましては長岡地域新市建設計画によるということで、建設計画書の表紙をおめくりいただきますと、目次があります。序章から10章までそれぞれ構成してございまして策定して

いくこととなります。

説明は以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ただいま説明を受けました新市建設計画策定の考え方と手法について、いろいろとございますが、ご質問等ありましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、もう一度確認になりますけれども、1月26日に開催されました長岡市・栃尾市合併協議会、長岡市・与板町合併協議会において、建設計画の策定に当たっては長岡地域新市建設計画を基本とするということが既に決まっております。今の説明もその内容はいずれも同じでございますので、建設計画策定と同時に同様なもので進めていきたいと思っておりますので、よろしくご了承いただきたいと思っております。ありがとうございました。

それでは、次へ進みたいと思っておりますが、5番目になります新市建設計画について、事務局、お願いいたします。

事務局（竹見）

ただいまご承認いただきました策定の考え方と手法に基づき、策定していくわけでございますけれども、最初に栃尾市さん、それから与板町さんのことを委員の皆様から知っていただくことが大切ではないかと考えました。それで、それぞれの地域の概況をご説明いたします。

まず、栃尾市のご担当の方お願いいたします。それから、お手元に栃尾市さんと与板町さんの資料がありますので、そちらをごらんいただきながらお願いいたします。

栃尾市総合政策室（諸橋）

栃尾市の合併担当をしております諸橋と申します。よろしくお願いいたします。

では、栃尾市の紹介をさせていただきます。栃尾市は、新潟県のほぼ中央に位置し、名峰守門岳の豊かな自然に抱かれた源流の里です。守門岳西面に源を発する刈谷田川、そして西谷川、塩谷川の3本の川が谷を刻み、その流域にまちや集落が点在しております。また、刈谷田川と西谷川の合流点に広がる平地に市街地が形成され、山々から流れ出る豊かな清流にはぐくまれて発展してきました。

刈谷田川流域の歴史は古く、市内には縄文時代の痕跡が数多くあります。戦国時代には、長尾氏の有力な城下の一つとなり、城下町として次第に発展しました。また、越後の雄、上杉謙信は父、為景の没後14歳のとき中越地方の鎮撫のため栃尾城に入城し、旗上げをし、6年間にわたる滞在で数々の武勇を打ち立て、内外にその名声をとどろかせました。19歳のとき栃尾衆を引き連れて春日山城に入城し、越後の国主になりました。

栃尾郷において古くから行われていた養蚕、機織りは、江戸時代中期の縞紬の生産により全国的な市場を確保するようになります。近代に入ると、織り機の機械化、戦後の化学合成繊維織物生産などを通じて繊維産業が発展を続け、栃尾は全国有数の繊維産地となりました。

山紫水明の地である栃尾市は、各所に数え切れないほどの湧水があります。中でも名水百選に選定された杜々の森湧水には、市内外から多くの人々が訪れております。

また、守門岳中腹に広がる道院高原は、守門登山の基地であり、近年ではオートキャンプ場やグレステンスキー場などのアウトドア施設が整備され、高原型リゾート地域となっております。

栃尾名物ジャンボ油揚げはあぶらげと呼ばれ、市内には20軒以上の油揚げ屋さんが軒を並べております。普通の油揚げの約3倍という大きさがあり、200年以上の時を今に受け継ぐ伝統食品として全国各地に出荷されております。

また、絹織物の残り糸を利用してつくられたのが始まりと言われている栃尾手まりも名産品の一つであります。

また、四方を山に囲まれた雪深い山紫水明の地は、豊かな清水、澄んだ空気、そして上質な米に恵まれ、酒づくりには最良の環境です。伝統の技は味に磨きをかけ、栃尾の名酒は丹念に醸し、清酒品評会において数々の栄誉に輝いた逸品ぞろいです。

これら豊富な地域資源を生かしたイベントが市内の至るところで行われ、ルート290号、道の駅を交流の拠点に、年間を通じて多くの人たちが訪れています。

今後新市としての栃尾地域は、繊維産業を核とし、素材からこだわる多分野の栃尾ブランドづくりや、自然に培われた確かな素材による新長岡名物を生み出す、発信するとともに、祭りや交流を通じた地域コミュニティを守り続け、伝統文化、人情を大切に、豊かな観光資源を活用して、来て、見て、食べて、楽しいテーマ型観光の拠点を目指していただきます。

以上であります。

事務局（竹見）

それでは、続きまして与板町のご担当の方よろしく申し上げます。

与板町総務課（安達）

与板町の総務課長の安達といたしますが、よろしく願いをいたします。お手元の方に町勢要覧ということで作成したものをお配りしておきましたので、それに補足をしながらということでお願いをしたいと思います。

まず、現況でございますが、新潟県のほぼ中央でございます。大河信濃川を東に、西には西山丘陵という穏やかな山林を背に、水と緑に囲まれた地域でございます。人口の方でございますが、最高で9,700人ということでございましたが、年々減少いたしまして、現在では大体7,500人というような状況でございます。

生活基盤の方でございますが、町勢要覧の5ページ、6ページお開きをいただきたいというふうに思

います。生活基盤につきましては、ほぼ完備をされておりまして、住環境の整った住みやすい町というようにございます。面積は非常に小さいということもございますが、都市計画区域等都市計画法に基づきまして当初から設定をいたしまして、現在では1,600ヘクタールということそれぞれ都市計画区域を持っているところでございます。

また、道路関係につきましては、国道403号が中心街を走っておりまして、あと東西南北それぞれ県道が走っております。それを補完する形で町道の方が整備をされているというような状況でございます。

また、雪の関係でございますが、消雪パイプにつきましてはほぼ生活しておられる部分、全町につきまして消雪パイプが布設をされており、下水道につきましては普及率99.9%というようなことで、これは新潟県でもトップクラスということもございます。現在水洗化率につきましても85%ということで、県の長岡下流域下水道の方にそれぞれ接続をさせてもらっているところでございます。

あと教育の関係でございますが、与板町は小学校1、中学校1、それから県立高校1校というようなことで既に統合の方が終わっておりまして、それぞれ1校ずつというようなことで一貫性のある教育を行っているというような状況でございます。

それから、公園の方でございますが、都市公園ということと与板河川緑地たちばな公園が川沿いにそれぞれ整備をされているということございまして、昭和52年から約10年間ぐらいかけて、それぞれ河川公園の整備をさせていただいたというようなことございまして、要覧の15ページ、16ページの方を見ていただきますと、それぞれそのゾーンの代表的なものが載っているというようなことで、土日になりますと、町外から非常に多くの方が訪れておられますし、長岡市さんの方からも何々保育園というようなことで平日おいでになっているというような状況でございます。

あと産業の関係でございますが、与板町につきましては古くから打ち刃物というようなことございまして、現在伝統工芸士の方が11名とおられまして、それぞれ地場産業の振興を図っておられるというような状況でございます。町勢要覧の13ページ、14ページの方をお願いしたいと思っております。現在その中でも村のかじ屋というようなことで、昔の打ち刃物の製造の実演というようなことで、それぞれイベント等で実演をされておるということでございます。

あと農業の関係でございますが、農業につきましては、面積は小さいんですが、転作の関係で大豆の方が非常に盛んでございます。その中でもエンレイという品種でございますが、大豆につきましては農林水産大臣賞、個人でも何回か受賞されているというようなことで、非常に大豆につきましては県下でも有数な品質ではないかなというようなことで思っているところでございます。

それから、歴史、文化、観光の方でございますが、これにつきましては町勢要覧の1ページから4ページにも少し載っておりますし、18ページから22ページの方にも少し載っております。直江兼続ということで、上杉景勝の家老というようなことで活躍された方でございますが、その方の城が与板町の南にございます城山というところがございます。現在新潟日報で火坂さんが毎日連載をされておりますが、豊臣秀吉からは非常にかわいがられたというようなことございまして、現在の山形県の米沢市、これ

のもとを位封されてからは築かれたというようなことでございます。この直江兼続公をNHKの大河ドラマにぜひというようなことで、新潟県でも六日町、それから与板、上越市、それから山形の米沢市一緒になりまして、NHKの方にも現在陳情をしているというようなことでございますし、この方につきましては県内、三条市にございますが、現在でも直江町ということで名が残っておられますし、治水事業に非常に活躍をされたというような方でございます。

あと与板まつりということで、与板十五夜まつりというのが現在行われております。これは屋台でございまして、町勢要覧の19ページから20ページを見ていただきますと、江戸時代から続いている屋台というようなことでございまして、現在大体260年ぐらいたっているというようなことでございます。現在町内に3台の屋台ございまして、与板まつりをやっているというようなことでございます。

大体概要につきましては以上でございます。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、続きまして資料4の方、事務局の方からお願いいたします。

事務局（竹見）

それでは、続きまして栃尾市または与板町が6市町村と合併した場合、建設計画にどのような形で位置や人口、面積が整理されるのか、建設計画の第1章をまとめましたので、説明いたします。

資料の4をごらんください。こちら建設計画の第1章、新市の概況から見た可能性をまとめたものでございます。まず、1ページ目は位置、地勢ということで、長岡市、いわゆる中心までのアクセス時間、それからアクセス距離をまとめております。

続きまして、2ページにつきましては新市の全体図でございます。

それから、3ページ目以降でございますけれども、追記もしくは修正した部分につきましては網かけをしてございます。3ページは人口と世帯です。

それから、4ページが人口動態の見通しということで、グラフにありますように、例えば栃尾市さんでしたら人口の推移は長岡市の次にグラフを示してあります。それから、与板町さんは小国町さんのすぐ上ですかね、形でグラフを表記しております。

それから、5ページは気象ということで、月別の最高、最低気温、それから長岡地域の積雪深、それから積雪日数などをまとめてございます。

続きまして、6ページです。こちらは、面積を整理しております。

それから、7ページが土地利用でございます。栃尾市さんが加わったことで、山林がかなり増えております。

続きまして、8ページが都市計画区域でございます。それぞれ都市計画区域の面積、あるいは用途地域の面積などを整理しております。

続きまして、9ページが新市の競争力ということで、新市のいわゆる強みの部分を整理しております。

こちらのページは、各地域の産業の成長や産業中分類別事業所数の特化係数、それから従業者の全県におけるシェアなどをまとめております。栃尾市さんは、繊維の部分で少し特化係数が上がっております。

そして、10ページでございます。こちらが小売1店舗当たり販売額と小売吸引力、そして年販売額と全県におけるシェアということなどでまとめてございます。

続きまして、11ページです。こちらは農業の関係、いわゆる人口当たりの米粗生産額、あるいは新市でとれるお米は何年分ということでそれぞれまとめてあります。左の文章ありますように、数値的には6市町村から見て変わっております。

続きまして、12ページが新市の暮らしやすさということで、上から污水处理の整備率、そういったものを整理しています。それから、刑法犯罪認知件数と検挙率、そして重点ポイントと10万人当たりの交通事故件数ということで、特にこちらは文章の方は変わっておりません。

続きまして、13ページはボランティア関係、ボランティア養成講座、あるいは行政出前講座、そして施設ボランティア関係の実施状況をまとめておりますけれども、それぞれデータがございませんでしたので、こちらは変更ございません。

続きまして、14ページでございます。こちら交流する力ということで、それぞれインターチェンジまでのアクセス時間、あるいは観光の入り込み客数、あるいは観光客の伸び率などを整理しております。それぞれご確認ください。

そして、15ページが新市の交流する力ということの中で、通勤通学流動の状況や新市内の県内の通勤通学流動の状況などをまとめております。

最後の16ページですけども、こちらは姉妹都市とか友好都市関連などを整理しております。特に修正等はございませんでした。

以上、第1章の説明は終わります。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

今の事務局からの説明内容につきましてご質問、ご意見等がありましたらお願いしたいと思います、ご質問特にございませんでしょうか。よろしいですか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

特にご質問がないということでございますが、これから今後のそれぞれの構想につきまして意見をいただきたいと思っております。今日は、栃尾市さんと与板さんとグループが二つございますので、最初に新しい将来構想、新市に向けての夢とございますか、お考えとございますか、ご意見とございますか、そういうものを自由にひとつご発言いただきたいと思っておりますが、最初に栃尾市さんの方からお願いをしたいと思いますけれども、ご自由にひとつご発言をいただきたいと思っております。

委員（外山康男）

栃尾市の外山でございますが、新長岡市をつくるに当たりまして、私も最初の構想の段階でちょっとお手伝いといえますか、お世話になりました。地域が一つになって、それぞれ地域の個性を生かしたまちづくりをお願いしたいというようなこともお話ししてまいりましたので、その間ちょっと抜けたこともございますが、今後とも個性のある地域性を生かした新長岡市をつくっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員（平林豊作）

栃尾の平林でございます。それで、今回こうやって土俵の上に上げていただいたということ、本当に栃尾市としては喜んでおります。それで、今一番栃尾で困っていること何だと。少子高齢化ということでだんだん人口が減っていく。今回もやっぱり災害で人口も減りまして、果たして人口はどうしたら増えるか、これが一つの新しい市というか、まちになってくれば、そこらをひとつ本気になって考えていかなかったら、やっぱり将来はないみたいな、地域とすれば。だけど、均衡のとれた発展というか、それをうたっておりますので、大いに我々も期待しております。ともかくその中で一番のやっぱり自然というのは、何だって守門山というのが、住むということでは山が余計なんです。先ほどもお話ありましたように刈谷田川、塩谷川、西谷川、その周辺に人家が点在しているようなもので、その山をいかに開発というよりも、それぞれひとつ自然を生かした将来の計画そこに結びつけていかれたらなと思えます。よろしくお願いいたします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

今度新市になりますと、実は海も仲間に入ってまいりますから、山あり、海ありで非常に広域の居住地域として高い評価を周りから受けるんじゃないかという気はいたしますし、特に私前に申し上げましたけど、栃尾のがん木文化といえますが、これは世界に冠たるものでございまして、ここに何か大きな力を結集して、日本で一番優れたがん木のまち並みの観光地としてこれ発展すればすばらしいなという気がしておりますけれど、これは新しい新市になってから一つの施策のポイントにはなるんじゃないかなという気がちょっとしております。

ほかにご意見ございませんか。

委員（大地正幸）

実は、昨日栃尾市へお伺いしました。一人で黙って行ってきましたけども、それで栃尾と下田村とどういう形で接しているのかなということで、余り行っていなかったもんですから、人面からずっと行って、いわゆる下塩谷から上、それで梨の木トンネルを通過してずっと行って、梨の木トンネルのところで両方に分かれています、境が。ああ、そうか、ここ行くと、今度はこれを通して新たに奥の方、会津の方へ昔の道、今は大きい道をつくっているわけですけども、そうすると福島と随分近くなるんだなというようなことを思いながら、こういう森林が多いということも海があるということと同時に、森林が

多く、またそれぞれ歴史を持った土地柄ですので、有効的にやはり活用していただけるか、そういうことで今平林さんの方からお話があった少子高齢化というような問題がありますけれども、その辺はちょっと教育の問題が大きく影響するのかなというふうなことで、その土地から離れるという教育ではなくて、そこへ人が集まってくるという教育ということを目指して、栃尾でこういうふうなことをやりたいとか、こういうことが忘れられないんで、栃尾にどうしても住みたいというふうなことをやはり新しい市になっても追求していった方がいいなと。やはり自然のすばらしさには驚嘆して帰ってまいりました。

以上です。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ほかにご意見ございませんか。

はい。

委員（外山康男）

大地委員さんが言いましたので、私非常に本当にそのとおりだと思います。奥只見でシンポジウムがあったときちょっと何年前に行ったんですが、289号線、まさにあれができれば、只見郷は大正の初めまではほとんど新潟県の経済圏だったとっていて、村松、それから長岡、栃尾と、三条という言葉が出まして、いろいろと市民も新潟県の圏域になると。そして、逆を考えれば栃尾が長岡の方の会津との入り口になるなという発想で、またまちづくりや新しい長岡を築いていけばいいんでないかと思えます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

ほかにごございませんか。

鯉江委員、何かございませんか。

副委員長（鯉江康正）

ありません。

委員長（豊口 協）

よろしいでしょうか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

それじゃ、また何かありましたら後ほどお伺いするとしまして、次に与板町との合併による将来構想の実現に向けての新市のまちづくりの夢といいますか、ご意見等いただきたいと思えますが。

はい。

委員（石丸誠亮）

与板の石丸です。まず、こういう会議に慣れていないもので、何を言い出すかちょっとわかりません

けど、ご勘弁願いたいと思います。

長岡市さんは新市全体の中でまちづくりを考えていくと、そういうことなんですけど、与板は三島郡の一応中心というか、昔から良寛様のあれも与板、和島ありますし、また海にも道路アクセスあります。この間の法定協のときもそういうお話出ましたけど、そういう幹線道路というか、全体を考えた中で、中之島町も含めて、そういうことをやっていっていただけたらありがたいなと思いますし、あと歴史もありますし、老人化率も与板は今きっと23ぐらいなんだと思いますけど、三島郡の中では一番いいんじゃないかなと思っています。あとさっきも課長さん言ったようにハードの生活関連ですかね、そういうのはほとんど整備終わっています。あと学校関係も1校ずつありますし、幼稚園もちょっとよそに誇れるような制度で与板はやってきています。そんな中で、あっちこっち三島郡の中心として見ていただければありがたいなと思っています。

ちょっとまとまりのないこと言って済みません。以上でお願いします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

ほかの委員の方々からご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

じゃ、お願いいたします。

委員（平林豊作）

もうひとつ栃尾のことなんですけど、栃尾は産業が繊維なんですけど、その繊維がかなり落ち込んでいっているというよりも、大体にして今度3分の1ぐらいになったんじゃないかと思うんです。果たしてそれを見直ししなかったら、それに今まで就労の場所としてもものすごく就職とか、あるいはアルバイト。だけど、最近になって若者はご存じのようにやっぱり長岡方面へみんな出てきているんです。そうしてくると、我々みたいなちっちゃい業者は、繊維じゃないんですけど、シルバー人材、ああいう人たちからやっぱり協力してもらってやっと成り立っているような状況です。そうしますと、さっき私言いましたようにこれからいかに人口を増やしていくか、そうなってくると、これ私は一つの提案なんですけど、ちょっと意味は違うんですけど、やっぱり家族制度、今みんな核家族になっていますが、戦後60年経ちますが、今見ると若い人たち、子供ができてても邪魔になると殺してしまうような時代です。それじゃ、困ると思うんです。家族制度の確立というんだか、原点に戻って、人口増やすつもりだったら、家族がしっかりしていれば、それに対しての税制面とか優遇措置、よそにないような、できたら新しい市でやっぱりよそに先駆けての優遇措置をとるように、そこらまたひとつ考えてもいただきたいと思います。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

かなり具体的なご意見になってまいりましたけど、どうぞ今日ご自由に、時間もございますので。

委員（鯉江康正）

今日の資料4の14ページなんですけど、まず与板からいきます。与板については、高速道路インターチ

エンジンまでのアクセス時間が19分になっているんですが、町勢要覧を見ますと、中之島見附からは10分になっています。長岡インターが20分になっているので、随分、倍も違いますから、実態としてはどうかという感じがちょっとあります。それと、同様のことが栃尾についても言えまして、栃尾の場合は今日の封筒のところに書いてありますが、中之島見附までが30分と、封筒の裏側ですが。こちらの資料ですと35分で、どうも30分というのが一つの今回のキーワードになっているそうなので、その辺確認していった方がいいんじゃないかというふうに思います。

委員長（豊口 協）

事務局、お願いします。

事務局（竹見）

こちらのグラフは基本的には長岡地域振興計画で、それですいていれば早く着くし、混雑すれば当然遅く着くんですけど、そういった混雑時とか、すいているときの状況を平均した中で計算したものがこちらの計画の中で整理されている時間なんです。ですので、計測をどうするかで当然違ってくるんですけど、地域振興計画のそういった考え方で今こちらの方は整理しているということです。

委員長（豊口 協）

ということは、平均値として考えればいいと。

事務局（竹見）

はい。

委員長（豊口 協）

何かご意見ありますか。よろしいですか。

事務局（北谷）

このデータでは、このような形になるということです。6市町村もこのような形で作成してありますし、寺泊町に関してはデータがなかったので計測をするという形になりましたが、ここではちょっと難しいと考えます。

委員長（豊口 協）

今後新市がスタートした段階で早く着けるような、そういう新しい道路計画も考えていただければと思いますけど、ありがとうございました。

ほかにございませんか。よろしいでしょうか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

それでは、今日予定されました議題は以上でございます。

事務局の方から何か通知がありましたらお願いします。

事務局（高橋）

今後の予定でございます。

まず、長岡市と与板町の小委員会でございますが、次回2月3日木曜日でございますが、午後5時から開催したいというふうに考えております。それから、2月の8日の日になりますが、午後、夕方の6時から長岡市・与板町の3回目の小委員会、それから同じ2月8日になりますが、午後7時30分、夜の7時30分ですが、長岡市・栃尾市の第2回目の小委員会を開催したいと思っております。これがスケジュールでございます。9日の日に協議会が予定されておりますので、ここで協議会にお諮りする段階の建設計画書の案をまとめたいというふうに考えておりますので、よろしく願いをいたします。

以上でございます。

委員長（豊口 協）

ただいまの日程に何かご質問がありましたら、よろしいですか。ご確認をいただきたいと思えます。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

それでは、どうもありがとうございました。

以上をもちまして本日の小委員会の日程はすべて終了いたしました。

大変多角的なご意見をいただきまして、一歩前進というふうな感じがいたしておりますけれども、大変ご協力ありがとうございました。

これで終わりたいと思えます。

（午後6時30分 散会）